



# 統計通論

『統計通論』は、日本近代統計の祖・杉亨二の弟子である横山雅男によって書かれた、統計学の教科書である。

明治 16(1883)年、統計の専門家を養成するための「共立統計学校」が設立された。杉亨二らが中心となり、そのほか岩崎弥太郎、渋沢栄一ら有志 84 名によって設立された、日本で最初の統計専門学校である。横山はその第 1 期生として入学し、3 年間本格的に統計学を学んでいる。しかし、共立統計学校は横山らの卒業と同時に、後ろ盾である統計院が廃止されたためにわずか 3 年で廃校となった。

その後、統計学校は再興されなかったものの、統計学を簡単に教える目的で、明治 32(1899)年陸軍省で統計講習会が開かれた。また明治 32-36,39 年には講習志願者を全国から募った中央統計講習会が東京で開かれた。これが好評を博し、以後、全国の府県、郡市町村において統計講習会が相次いで開催されるようになった。

横山は全国各地の講習会で講師を務め、統計学の普及に尽力した。その際、教科書として指定したのが『統計通論』である。内容は、統計学に関する一般教養のほか、調査で得たデータをいかに処理するかという統計編纂の実務、人口調査の基礎概念について力点が置かれている。

明治 32(1899)年から十数年の間に、統計を担当する町村吏員約 2 万人が横山らの講義を受けた。『統計通論』は明治 34(1901)年の初版から 40 版以上重ね、明治後期から大正期にかけて、統計実務のデファクトスタンダード(標準教科書)であった。

また、中国(当時・中華民国)における近代統計学の成立・発展にも寄与した。『統計講義録』とともに翻訳され、1910 年代ごろまで中国の統計学教科書として活用されていた。西洋のスタチスチック(独:statistik)は中国語でも「統計」として定着した。「統計」は幕末の洋学者・柳河春三が考案した訳語だが、杉は[寸多][知寸][知久]の合字を作り出したほどにこれを嫌っていた。弟子の横山によって中国にまで流布したことは歴史の皮肉かもしれない。

# 横山 雅男

(文久2年10月15日(1861年12月16日) - 昭和18(1943)年2月22日)

安芸国賀茂郡吉土実村に生まれる。

広島県師範学校(現・広島大学教育学部)を卒業し、郷里で小学校教員を務めたのち上京。

湯島の書籍館(現・国立国会図書館)に通う中、箕作麟祥の『統計学』などを通じて統計学に興味を持つ。

共立統計学校に第1期生として入学、杉亨二のもとで3年間学ぶ。

卒業後、統計学の普及発展のために尽くした。

|              |                           |
|--------------|---------------------------|
| 明治 19(1886)年 | 共立統計学校卒業                  |
| 明治 22(1889)年 | スタチスチック社に入社、「統計学雑誌」の編集を担当 |
| 明治 23(1890)年 | 陸軍省御用係として統計の編纂を行う         |
| 明治 33(1900)年 | 陸軍大学校の統計学教授となる            |
| 明治 41(1908)年 | 国勢調査準備委員会幹事               |
| 大正 2(1913)年  | 内閣統計官となる                  |
| 大正 9(1920)年  | 第1回国勢調査を指導した              |
| 大正 15(1926)年 | 統計学社社長に就任                 |

実地商業夜学校、専修学校など多数の学校で統計学を講じた。なかでも陸軍大学校、慶應義塾大学では約20年にわたり教鞭を執った。

また、ほぼすべての道府県をまわり統計学講義を行った。受講生の年齢、学力にはばらつきがあり、アラビア数字による計算や講義の筆記がおぼつかない者もいたようである。落語のくすぐりや直観的な比喩を用いて、統計の何たるかを浸透させようと努めた。

統計学雑誌を刊行し、統計学の普及発展に寄与した。自身もそこで多数の論文・随筆などを掲載した。「統計は社会の明鏡なり」をはじめとする統計標語も自ら作成した。標語は横山の統計への姿勢を顕わすものとして『統計通論：全』にも収められている。

杉の念願としていた国勢調査実施のため、呉文聡らとともに十数年にわたり運動を続けた。その結実たる明治38年国勢調査は日露戦争のために延期され、杉の生前には実施されなかった。大正6年ようやく第1回国勢調査費を含む予算案が公表され、大正9年10月1日午前零時現在で調査が行われることが決定した。杉はこの報せを耳にした数時間後に永眠した。横山は内閣統計官として調査員育成に携わり、第1回国勢調査の実施を支えた。

## 展示資料

♣統計通論 横山雅男著 専修学校 1901年【D111:Y79a】

♣統計通論：全 改訂増補42版 横山雅男著 有斐閣 1921年【D111:Y79】

## 参考文献

📖明治・大正期スタチスチック雑誌統計学雑誌論文選集 日本統計協会 1979年【D05:N77】

📖[寸多][知寸][知久] 復刻版 日本統計協会 1980年【D11:Su32】

📖国勢調査と日本近代 佐藤正広著 岩波書店 2002年【D41J3:Sa85】

📖帝国日本と統計調査 佐藤正広著 岩波書店 2012年【D3211t:Sa85】

📖日本の統計学五十年 日本統計学会編 東京大学出版会 1983年【D112:A76ア】

📖日本統計史群像 島村史郎著 日本統計協会 2009年【D3211:Sh39-1】